多久
TAKU

多久ミュージカルカンパニー　「誰かのために～志田林三郎の想いを紡いで～」

議会だより

平成30年
12月定例会
第39号

目次
contents

主な議案 ▸ P2
議案質疑 ▸ P3
審査報告 ▸ P4
委員会活動報告 ▸▸▸▸▸▸ P5
一般質問 ▸▸▸▸▸▸▸▸▸ P7
図書館建設事業について ▸▸▸ P11
街で発見！司法の父と炭鉱王 ▸ P12

街で発見！

司法の父「鶴田皓（斗南）」と炭鉱王「高取伊好」

天保6年（1835）～明治21年（1888）　　嘉永3年（1850）～昭和2年（1927）

去年県内では一年を通して明治維新150年イベントで盛り上がっていましたね。多久からも、日本電気工学の祖「志田林三郎博士」が取り上げられていました。そこで、まだまだ多久で活躍している人物がいないか探してみました。今回は、兄弟で活躍したこの二人！

鶴田皓・高取伊好は、多久の儒臣鶴田斌の長男・三男として生まれました。斌は多久家の家臣西文蔵の子ですが、幼くして鶴田家の養子となりました。

斌自身を含む、西家の４人の兄弟は皆、幕末期の漢学者・漢詩人として名高く、また、姉の佐与は佐賀藩校弘道館の教授であった草場佩川の妻となるなど、学者一族でした。

兄　鶴田　皓（斗南）

９歳で四書五経を誦し、11歳の時には律詩を作るほどの秀才で、草場佩川に学び、後に遊学して、当時の儒学の碩学に学びます。

戊辰戦争では佐賀藩兵のアームストロング砲分隊長として従軍し戦争後、大学校教授となりました。

その後、刑部少に転じ、明治５年江藤新平司法卿の命を受け、ヨーロッパに法制度調査に行き、先進各国の刑典・司法を視察、帰国後は司法職を歴任し元老院議官に進み、刑法を起草し治罪法、陸海軍刑法、会社条例、破産法の制定に参与するなど、幅広く法務行政に大きな役割を果たしました。体が大きな人で、酒が強かったようですが、54歳の時、突然病により亡くなりました。

弟　高取　伊好

５歳より、東原庠舎に学び、８歳で佐賀水ケ江に住む高取大吉（東原庠舎教諭であった姉ケイの夫）の養子となります。

慶應義塾で鉱山学を学び、官費学校の「鉱山寮」に入学、採炭学を修め、後に数々の炭鉱を経営。

古希を機に事業界を退隠、地元や社会事業等に多額の寄付を行い、多久村に図書館、公会堂、西渓公園を寄贈しました。

明治から大正にかけ炭鉱王と言われ、一代で西日本を代表する富豪の一人となった一方、事業で得た富を文化教育事業に注ぎました。

学者の家に生まれながら実業家になったのは努力しても兄（皓）を超えることができなかったためとも言われています。

議会広報委員会

委員長　樺島永二郎
副委員長　服部奈津美
委員　香月正則
委員　田渕野北
委員　野口義光
委員　厚悟

平成30年度
議会報告会への
ご参加ありがとうございました。

たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。ご意見は今後の議会活動に反映させていきます！

発行／多久市議会　多久市北多久町大字小侍７番地１
TEL 0952-75-4828　FAX 0952-75-2110　E-mail：gikai@city.taku.lg.jp
編集／議会広報委員会　　印刷／株式会社 音成印刷

多久市議会定例会のインターネット動画配信をしています。
多久市議会のホームページにアクセスしてください。